

ごあいさつ

一般社団法人日本医学会連合
会長 門田守人

このたびは、一般社団法人日本医学会連合のシンポジウム「加熱式タバコと健康：使用実態・科学的評価の現状と今後の課題」にご参加いただき、真に有り難うございます。

喫煙は予防可能な最大の死因です。喫煙者本人に対してのみならず、受動喫煙によって非喫煙者も、肺がんのみならず、循環器や呼吸器疾患はじめ様々な致命的な疾患に罹患することが科学的に証明されています。こうした知見が広く認められる状況の下で、紙巻タバコから新型タバコ（電子タバコ、加熱式タバコ）への販売戦略の見直しが大きく進んでいます。特に、日本では加熱式タバコの普及が諸外国に比べて急速に進んでいて、タバコ製品に占める加熱式タバコの割合は、2018年には20%になると推定されています。

それでは、加熱式タバコの有害性は紙巻タバコに比べて低いのでしょうか？加熱式タバコを周辺で吸っている者がいたときに、二次喫煙は無視できるのでしょうか。実はこうした事柄については、販売が間もないということもあり、医学研究者や臨床の先生方の間でも、科学的認識が共有されているとは言い難いのが実状です。

報道によると、健康増進法改正案が今国会で審議される予定です。この改正の目的は、海外の国々に遙かに後れをとっている受動喫煙の防止を強化することとされています。しかし、この改正案では、加熱式タバコに対しては紙巻タバコより緩やかな規制をされると言われています。果たして、このような対応で良いのでしょうか。

日本医学会連合では、社会部会の企画のもとに、医学の他領域の分野に共通する課題である「加熱式タバコと健康」について、今回のシンポジウムを行うことにしました。この分野でご活躍の講師を招き、学術的な面を中心に議論を深めることができると考えています。加盟団体の会員の皆様のみならず、ご参加いただいた医療関係、諸団体、一般の方々にとっても有意義なものとなることを期待しております。

今回、講演をお引き受けいただいた講師の先生方、ならびにご参加いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。